



2024みやざき
農村整備
未来農業
開拓

宮崎県のあらまし

県土の概況
本県は九州の東南部にあり、太平洋に面して明るく開けた陽光豊かなところから、古来、「日向」のくにと呼ばれてきました。気候は温暖で、九州山脈を背にして綿糸かな太陽と緑の国とのままの美しい土地を形成しております。

本県は天草路神話などの歴史ロマンを感じさせ伝承や歴史資源を数多く有しており日本発祥の地とも称され、日本の美しい風景ある農山村や人情味あふれる県民性など、日本の原点ともいえる個性を誇っています。

本県の地理は、県北部から南西に連なる九州山脈、県西南端の霧島山群など山岳地帯が多く、山林原野が総面積の3割に達しており、農地面積は8.4%にすぎません。農地は、中部沿岸地帯および霧島盆地に位置分布が分布し、その内陸部を横断して太平洋にそそぐ河川の流域沿いに主として分布しています。

農業の概況
宮崎県の自然条件は、畑地を中心に広く分布している火山灰性不良土壌や、集中豪雨、台風災害、大雨市街地に隣接するなどどのような不利な条件もありますが、太陽と緑の国で象徴されるように温暖な気候に恵まれております。日々時間、快晴日は全国でもトップクラスであり、このような気候を生かしながら農業の発展に努めています。また、令和3年3月には九州自動車道「清武南IC~日南北郷IC」(延長17.8km)が開通しました。県内主要都市間を約1時間で結ぶことになりました。

本県の農産出額は、令和3年度で3,505億円となっています。この農産出額のうち、肉用牛、豚、鶏、野菜で割りを上に占めており、畜産に特化しています。

県内産業における農業の割合は、第2位、第3次産業の発展にとどまらず、相対的に低下につあります。また、令和3年度は県内生産額のうち、農業生産額は3.6%を占め、本県基幹産業のひとつとして位置づけられています。

世界農業遺産「高千穂郷・椎葉山地」

世界農業遺産とは、その土地の環境を生かした伝統的な農業・文化・生物多様性が守られた土地利用、農村文化・農村景観などを「地域システム」として一休的に維持保全し、継承していくことを目的として、国連農業農業機関(FAO)が認定するもの。令和3年3月現在、世界で26ヶ所86地域、そのうち日本では15地域が世界農業遺産(GIAH)に認定されています。

高千穂郷、日之影町、五ヶ瀬町、諸塙村、椎葉村の3町村で構成される「高千穂郷・椎葉山地」は、延長150km以上の中流段階水路と、1,800haを超す細田畠、森林を保護管理したためモザイクアートがあり、そこでの間伐林業(木立更新)、シカタイ栽培、肉用牛生産、茶葉栽培、鹿児島などがあります。地元住民の手によって、伝統的な山地の農業文化と多様な色文化が受け継がれることとともに、実践的な地域づくりが行われており、世界のモデルとなる重要な地域であると高い評価を受け、平成27年に世界農業遺産に認定されました。

日本農業遺産

日本農業遺産とは、社会や環境に適応しながら継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わっている景観、農業生産多様性などが一体となった伝統的農林水産業を営む地域(農林水産業システム)を認定するもので、令和5年1月現在、24地域が認定されています。

本県では、気候風土を最大限に活かし、年間を通じて露地野菜や「干し野菜」の技術を多角的に組み合わせ、露地畑作の高度利用水システムが発展してきた「日野・清武地域」など、SDGs(持続的な開発目標)にも合致する伝統漁法であり、造船材に特化した人工林を行った特殊な薪材林業と結びつき、地域を支える産業として継承されてきた「日南かつお一本釣り漁法」の2地域が認定されています。

宮崎県の概要

人口

全国比

九州
11.3

宮崎
2

その他
8.4%

全国
100

九州
12

宮崎
2

その他
8.4%

全国
100